



国立新美術館 2026年企画展スケジュール

Exhibition Schedule for 2026 from The National Art Center, Tokyo

美術館は、人と人とが出会い、つながり、共に考える場として、活動をひらき、未来への希望を育む力を持っています。世界情勢の混乱や自然災害の増加、加速する地球温暖化。未来を描くことが難しい今日にあっても、私たちは美術館の活動を通じて、人々がつながり、協働することの大切さを伝え続ける使命があります。

国際博物館会議 ICOM (international council of museum) は2022年8月に博物館の定義を更新し、「教育、楽しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する。」と掲げました。その言葉は、国立新美術館がこれからも大切にしていきたい願いと重なっています。

2026年は、15-16世紀から近代、現代までの美術、そしてファッションやマンガなど、多彩なジャンルの展覧会を予定しています。今年度のテーマは「多様な美術表現」と「女性のクリエイション」。さまざまな視点から新しい発見や感動を味わっていただけることでしょう。

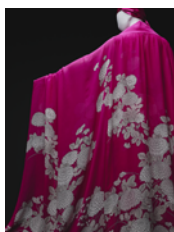
美術館での創造的な体験を通じて、「学び」「考え」「楽しみ」「知る」ことの喜びを味わいながら、新しい視点に出会う。その経験が他者への理解を深めることができるよう、2026年も幅広い世代の方々に国立新美術館の魅力を発信してまいります。皆さまと一緒に心豊かな時間を重ねていけることを楽しみにしています。どうぞご期待ください。

国立新美術館長 逢坂恵理子



テート美術館 - YBA&BEYOND
世界を変えた 90s 英国アート
2026年2月11日 (水・祝) - 5月11日 (月)

ヴォルフガング・ティルマンス(ザ・コック(キス))2002年、テート美術館蔵
© Wolfgang Tillmans, courtesy Maureen Paley, London; Galerie Buchholz, Berlin/Cologne; David Zwirner, New York/Hong Kong



生誕 100 年 森英恵
ヴァイタル・タイプ
2026年4月15日 (水) - 7月6日 (月)

森英恵《イヴニングアンサンブル(ジャンプスーツ、カフタン「雲のバジマドレス」)》1966年
ハダマ・トモリ 高橋麻立石見美術館蔵
撮影: 小川真晴

ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ
2026年6月10日 (水) - 9月21日 (月・祝)



ルーヴル美術館展
ルネサンス
2026年9月9日 (水) - 12月13日 (日)

レオナルド・ダ・ヴィンチ《女性の肖像》、図って付された別称《美しきフェロニール》
1490-1497年頃
パリのルーヴル美術館蔵
© Grand Palais/Paris (musée du Louvre) / Michel Uriado



(左) Katsushige Hoshino/小学館 (中) Ryouji Yamanaka (右) Kazuhiko Inoue/講談社

少女漫画・インフィニティ 萩尾望都 × 山岸凉子 × 大和和紀 三人展
2026年10月28日 (水) - 2027年2月8日 (月)

企画展

テート美術館 — YBA & BEYOND 世界を変えた90s英国アート

2026年2月11日(水・祝)—5月11日(月)

会場: 国立新美術館 企画展示室2E

サッチャー政権時代(1979–90年)の失業率の悪化や不況を経験し、緊張感漂う英国社会では、既存の美術の枠組みを問い直し、作品の制作や発表において実験的な試みをする作家たちが登場しました。1990年代に「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト(YBA)」と呼ばれた作家たち、そして、彼らと同時代のアーティストたちは、大衆文化、個人的な物語や社会構造の変化などをテーマとし、多様な手法を用いて独創的な作品を発表しました。本展では、約60名の作家によるおよそ100点の作品を通じて、90年代の英国美術の創作の軌跡を検証します。



ヴォルフガング・ティルマンス《ザ・コック(キス)》
2002年、テート美術館蔵
© Wolfgang Tillmans, courtesy Maureen Paley, London;
Galerie Buchholz, Berlin/Cologne;
David Zwirner, New York/Hong Kong

企画展

生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ

2026年4月15日(水)—7月6日(月)

会場: 国立新美術館 企画展示室1E

1950年代にキャリアを開始した森英恵は、映画衣装の制作で注目されるようになりました。母、妻であるだけでなくデザイナーとして活躍していく森は戦後日本で新しい女性像を体現していきます。ニューヨーク、パリを舞台にして作品を発表し、日本人として初めて海外で本格的に自身のブランドを確立しただけでなく、日本の布地や職人技を生かして、美意識と技術力を発信し続けました。本展では約400点の作品を通じて、森の活動の全貌を紹介します。



森英恵
《イヴニングアンサンブル(ジャンプスーツ、カフタン「菊のバジャドレス」)》
1966年
ハナ立・モリ 島根県立石見美術館
撮影: 小川真輝

企画展

ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ

2026年6月10日(水)―9月21日(月・祝)

会場: 国立新美術館 企画展示室2E

パリの国立ピカソ美術館が所蔵する20世紀を代表する芸術家パブロ・ピカソ(1881-1973)の作品からインスピレーションを得て、伝統的な仕立てと遊び心あふれる色使いで知られる英国人デザイナー、ポール・スミスが会場のレイアウトを考案します。自由な発想で創り上げられた会場構成は、ポール・スミスがデザインする洋服や小物のような色鮮やかさと楽しさに満ちています。ピカソの初期から晩年までの作品群を緩やかな時系列に従って展観します。

企画展

ルーヴル美術館展 ルネサンス

2026年9月9日(水)―12月13日(日)

会場: 国立新美術館 企画展示室1E

イタリアで花開き、15-16世紀にヨーロッパ各地で隆盛したルネサンス美術の本質の特徴を、ルーヴル美術館の所蔵品から選りすぐられた50点余りの絵画、彫刻、版画、工芸の名品を通して、浮き彫りにしようとする展覧会です。初来日となるレオナルド・ダ・ヴィンチの傑作《女性の肖像》、通称《美しきフェロニエール》をはじめ、ルネサンス期の重要な作家たちの作品を紹介します。



レオナルド・ダ・ヴィンチ
《女性の肖像》、誤って付された別称《美しきフェロニエール》
1490-1497年頃
パリ、ルーヴル美術館
© Grand Palais Rmn (musée du Louvre) / Michel Urtado

企画展

少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展

2026年10月28日(水)―2027年2月8日(月)

会場：国立新美術館 企画展示室2E

少女漫画界を代表する巨匠、萩尾望都・山岸凉子・大和和紀の画業をたどる三人展を、国立新美術館開館20周年を記念し、開催いたします。

萩尾・山岸・大和は、いずれも1960年代後半にデビューし、1970年代には表現の可能性を大きく広げた「少女漫画黄金期」の立役者として活躍しました。以来、現在に至るまで精力的に作品を発表し続け、まさに表現の多様性を探求する歴史とともに歩んできた“時代の証言者”とも言える存在です。

本展では、三人のこれまでの創作活動を、代表作の原画や貴重な資料を通して振り返るとともに、それぞれの活動の軌跡、創作の源泉に迫ります。



企画展スケジュール

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
企画展示室 2E	テート美術館 — YBA & BEYOND 世界を変えた 90s 英国アート 2026年2月11日(水・祝)—5月11日(月) 会場：国立新美術館 企画展示室2E											
	ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ 2026年6月10日(水)—9月21日(月・祝) 会場：国立新美術館 企画展示室2E											
企画展示室 1E												
	生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ 2026年4月15日(水)—7月6日(月) 会場：国立新美術館 企画展示室1E											
	ルーヴル美術館 ルネサンス 2026年9月9日(水)—12月13日(日) 会場：国立新美術館 企画展示室1E											
少女マンガ・インフィニティ 萩尾望都 × 山岸凉子 × 大和和紀 三人展 2026年10月28日(水)—2027年2月8日(月) 会場：国立新美術館 企画展示室2E												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

国立新美術館について

国立新美術館は、芸術を介した相互理解と共生の視点に立った新しい文化の創造に寄与することを使命に、2007年、独立行政法人国立美術館に属する5番目の施設として開館しました。以来、コレクションを持たない代わりに、あらゆる国や地域の人々がさまざまな芸術表現を体験し、学び、多様な価値観を認め合うことができるアートセンターとして活動しています。具体的には、国内最大級の展示スペース(14,000㎡)を生かした多彩な展覧会の開催や、美術に関する情報や資料の収集・公開・提供、さまざまな教育普及プログラムや国際文化交流の実施に取り組んでいます。

来館のご案内

独立行政法人国立美術館 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木 7-22-2

<https://www.nact.jp>

一般の方のお問合せ: TEL 050-5541-8660(ハローダイヤル)

開館時間

10:00～18:00 企画展会期中の毎週金・土は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

休館日

毎週火曜日(ただし火曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌平日に休館)、年末年始

アクセス

東京メトロ千代田線乃木坂駅

青山霊園方面改札6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線六本木駅 4a 出口から徒歩約5分

都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分

※美術館に駐車場はありません

広報用画像

プレス画像は、こちらのURLより申請、ダウンロードいただけます。

<https://forms.office.com/r/EFahyTU9SU>

プレスリリースお問い合わせ

国立新美術館 広報室 Tel:03-6812-9925 E-mail:pr@nact.jp